

私たちは「森の管理人」

宮城県 仙台市立 ^{あやし}愛子小学校
5年 相澤 ちひろ 舟山 佳歩



学校紹介 ●●

^{あやし}愛子地区は仙台市の西部、山形県へ通じる国道沿いに広がる地域にある。
^{ばんざん}蕃山という標高350メートルほどの緑豊かな山のふもとに広瀬川の清流が流れる自然豊かな地域であり、かつては広々とした田園地帯が広がっていた。しかし、近年の宅地開発により田畑が減少し、どんどん住宅が増え、急激に人口が増加している。それに伴い、お隣の広瀬小学校から分離する形で平成21年度、愛子小学校が開校した。今年で開校4年目になる。

児童数は増え続け、現在は児童数約1,200名の大規模校となっている。



活動場所（学校林紹介） ●●

開校当初、真新しい校舎のすぐそばに1.6haの小さな森が広がっていた。この森を子どもたちのために何とか活用できないか、と考えた学校とPTA

役員・地域の方々と地権者の方々との話し合いが重ねられ、12名もの地権者の方々からの許可を得ることができた。その後は、PTAと地域の有志、職員とで森の応援団「ハグリッツ」を組織し、週末に集まっては伐倒や下草刈りなどの森の環境整備を行ってくれている。児童が安全に自由に森に入出入りできるようになるまでには約1年かかった。



サミットに参加してみても...

今復の夢・希望・活動計画 ●●

森の活用方法は、各学年の教科の授業での利用、学級活動や総合的な学習の時間での継続的な利用、ネイチャーゲームクラブの活動・・・と森の活用の仕方は多岐にわたっている。何より学校のすぐ隣に森があり、特別な交通手段や時間確保をしなくても、気軽に足を運べて自然を味わうことのできるありがたさを実感している。これからもこの恵みを大いに利用し、ますます活動の幅を広げられるよう実践の集積と改善を行っていききたい。また、今後は児童自身も可能な整備活動にたくさん参加し、環境維持の難しさや大切さを実感させ、自然を守ることを意識を高めさせていきたい。



私たちは「森の管理人」

愛子こどもの森での活動紹介

仙台市立愛子小学校

5年 相澤 ちひろ

5年 舟山 佳歩

私たちの学校のすぐ西どなりに 1.6ha の小さな森があります。「愛子こどもの森」です。

愛子小学校が開校した 4 年前に先生方が十人以上の地権者の方々と何度も話し合い、私たちの活動のために土地を借りてくださって誕生した森です。

私たちには『ハグリッツ』という強い味方がついていています。地域やPTAの方々で作る森の応援団です。いつも森を整備し、私たちが活動しやすいように森を整えてくださっています。



昨年私たちは総合的な学習の時間を使い、1年間「森の管理人」として様々な活動をしました。

- ◎森の自然遊具で遊ぶ
- ◎森の整備のお手伝い
- ◎「私の木」を決めて1年間観察
- ◎森の植物や生物の観察

宮城教育大学の先生のお話を聞く

- ◎キノコの菌うち



◎同じテーマの友達と
森について探る



◎森の発表会
◎森の感謝祭

森での活動を通して、森に生きる植物や生物の様子を詳しく知ることができました。今まで見過ごしていたことや気づかずにいたことをたくさん発見しました。これからも森へ足を運びたくさんの変化を見つめていきたいです。いつまでも気持ちのよい楽しい森のまま守り続けていけるよう、私たちができることを考え行動にうつしていきたいです。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

自由に入って活動のできる森が、学校に隣接して存在することは、子どもたちの活動の幅を大きく広げている。4年生は、総合的な学習の時間を使い年間を通して森へ足を運び、四季の変化の様子を感じながら様々な活動を展開した。他の学年でも、理科や生活科の観察はもちろんのこと、図工で絵を描く、工作の材料集め、さらには国語や道徳など、指導者の工夫によってダイナミックに授業展開がなされている。それらの活動を通し、これまで見過ごしていた自然の変化、生物の営みに気づき、森の存在意義について子どもなりに考えることができた。

また、クラブ活動では「ネイチャーゲームクラブ」を立ち上げ、自然好きの子どもたちが、活動のたびに森に行き、ネイチャーゲームを楽しんでいる。

さらに、森の整備の活動や森の感謝祭で地権者の方、地域の方々とふれあう機会が多くなり、自分たちの活動を支えてくださる人々への感謝の気持ちが芽生えている。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

子どもは自然と戯れるのが大好きである。しかし単発の活動や短期間の活動では、活動が表面的になり、正しい自然保護のあり方についてまでは思い及ばない。今後は、1年生から6年生までを通し系統だった息の長い活動を展開する必要があると感じている。

また、自然の中での活動である以上、ケガとは隣り合わせの面がある。特に学校での全員の活動であれば、予測される危険は取り除かなければならない。できるだけ自然な状態で森と関わらせたい思いと安全対策は、どの程度のバランスで行っていくか迷うところである。スズメバチが出たからといってどの程度駆除すべきなのか、森の整備はどこまできれいにしていくべきなのか。悩みながら話し合いながら進めている。

さらに、本校は1,100人以上の規模の大規模校であるため、1.6haある森とはいえ、活動の内容によっては手狭感を感じることもある。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

現在行われている各学年の活動を集約し、縦の系統を考えた計画を作成する。森の活動をすべての学級が十分行えるよう、使用の割り当てや利用計画を出すなどの工夫をしている。

安全面の対策については、今後も引き続き専門家の意見を聞いたり、研修を深めたり、体制を整えたりをして、よりよい方向を目指していく。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

森の管理人である4年生は、活動の最後に、3年生を招いて森の案内を行っている。今後もこれらの活動のように、上の学年が下の学年に伝統的に森の良さを伝えていく活動を盛り込んでいきたい。

子ども自身のことばや行動で、「森を大切にしよう」「森を守っていこう」という気持ちを、引きついでいけるようになることを望んでいる。

宮城県 仙台市立 ^{あやし}愛子小学校

学校林を育て 森林について学ぼう！



山梨県 北杜市立 ^{あけの}明野小学校
6年 清水 空 藤巻 夏帆

各小学校の取組 ④

学校紹介

明野小学校は、全校児童245人で山梨県の北西部に位置し、自然環境が豊かで、校舎の窓からは、南に富士山、北にハケ岳、東に茅ヶ岳、西に南アルプスの山々（甲斐駒ヶ岳・鳳凰三山など）を見ることができます。

昭和50年に3つの小学校が統合され明野小となり、平成16年に北杜市誕生にともない、北杜市立明野小学校となりました。

学校のある明野町は、日照時間が日本一であることから、校舎屋上に太陽光パネルを設置して太陽光発電を行い、発電した電気は学校で使っています。また、ひまわり畑も有名で毎年夏に“サンフラワーフェス”が開かれています。



活動場所

学校から東に約3km離れた所に学校林があります。市が山間のくぼ地に盛り土を行い整備した土地を「森林環境教育の森（学校林）」として活用しています。平成20、21年に5・6年生と隣の明野中学校2年生、そしてその保護者が植樹・補植作業を行い、平成22、23年には、草取り作業を行いました。今は、学校林が大きく立派な森林になるよう育てているところです。



サミットに参加してみよう… 今復の夢・希望・活動計画

学校林を使ったいろいろな活動を聞いて、わたしたちの学校林も将来そのような活動や学習ができるような森林に育ってくれればいいなと強く思いました。大人になったとき「これがわたしたちの育てた学校林だよ」「どんな遊びができるかな」などと、未来の明野小の子どもたちに話ができるようになりたいと思いました。

そのためにも、学校林を育てるために今わたしたちにできることを頑張って取組んでいきたいと思っています。

1 活動のテーマ 「学校林を育て、森林について学ぼう。」

2 学校名 山梨県北杜市立明野小学校

3 発表者 6年 清水 空 藤巻 夏帆

4 学校紹介

明野小学校は、山梨県の北西部に位置し、自然環境が豊かで、ひまわり畑や日照時間日本一を誇る北杜市明野町にあります。昭和 50 年北巨摩郡明野村の上手・朝神・小笠原の 3 小学校が統合され、明野小学校として創立発足しました。その後、平成 16 年北巨摩郡内 7 町村が合併した北杜市の誕生に伴い、北杜市立明野小学校となりました。

全校児童 245 名で、「よく考え 工夫する子ども」、「仲よく 助け合う子ども」、「じょうぶで 明るい子ども」、「ねばり強く がんばる子ども」を目標に、明るく元気に生活しています。



5 活動フィールドの紹介

学校から東に約 3 km 離れた所に学校林があります。(社) 日本音楽事業者協会が主催する「虹の架け橋まごころ募金コンサート」の収益金による「まごころ募金」の寄付により、平成 20 年に町の小笠原地区の市有地に整備された「音事協の森」を学校林として森林環境学習などに活用しています。まだ、学校林としては生まれただけなので、その生長に関わる活動をしているところです。



6 活動の内容や様子

植樹

平成 20、21 年に、市の林政課の方々の指導のもと、小学校(5、6 年生と保護者)と隣接する明野中学校(2 年生)が協力して、「コナラ」、「シラカシ」、「カエデ」などの苗を植えました。

平成 20 年



平成 21 年



平成 22、23 年



草取り

平成 22 年から、植樹と同じように小中合同で草取りをしています。みんなで手分けをして、植えた木が早く大きくなるように願いながら、一生懸命草取りをしました。

森林学習

今年は、森林インストラクターで林業技能士の佐久間さんをお招きして、5、6 年生が森林について学習を行いました。森を守るという発想ではなく、生き物全てが森に守られているという意識を持つことの大切さを教えていただきました。



木工教室

3 年生は、北杜市内で製材所を営んでいる清水さんと福田さんから、森林の話を聞いたり、簡単にできる木工細工(コマなど)を教えていただきました。



7 今後の活動の夢や希望

私たちが大人になったとき、緑豊かな学校林で、明野小の子ども達がいろいろな活動や学習ができるよう、これからも学校林を育てる活動を続けていきたいと思っています。

森林環境教育の実践について

1. これまでの実践の成果（実践の効果や子どもの成長、今後の期待など）

学校林への植樹を始めてまだ4年あまりしか経っていないため、森林体験活動ができるまでに至っていない。しかし、自らの手で苗を植えたり草取りをしたりする活動をしたことにより、自分たちの森という意識が子どもたちの中に少しずつ芽生え始めてきている。

植樹した木々の生長とともに、「学校林」という森林が形成されていく姿を、子どもたち自身の目で見ていけることが、大変貴重な学習になると思われる。そして、その形成に自分たちの手も関わっているという気持ちを持つことによって、自然・森林環境の保全に向けての関心・意欲の高揚につなげることができると考えている。

2. 実践の課題（苦労したことや困ったことなど）

学校林が学校から離れた場所にあること（バス等を使用しての移動が必要）や、そのために行くことがなかなかできないこと。また、学校林を使つての森林体験活動・学習が、まだできる状態になっていないことが挙げられる。

3. 課題への対応（工夫したことや課題の解決策など）

学校林を使つての森林体験活動・学習が十分にできないことに対して、校内でできる学習として、森林学習や木材等を使用する図工学習の実施を行うように、教育計画を立案し実施した。

4. その他（今後の計画や方向、抱負や希望など）

今後数年は、植樹した木々の生長に関わる活動が中心になるが、その中でも森林環境に関する学習ができるような、学習計画を構築していく予定である。これまで、中学校とも連携して活動してきているので、中学校卒業まで継続した学習が望める。その特色を生かして、大きくなっても“自分たちの森だ”という気持ちが持てるような学習・活動を仕組んでいきたい。

山梨県 北杜市立 あけの 明野小学校